

潘士村^{フアンズ}は人家約五六十を有し、北は黄河に枕み、柿、檜多く、土質は皆砂、十二里河、王家村^{チヤ}（人家約）閿地鎮^{シヨウヂ}（人家約三百）十里館、齊家頂^{チヤ}（人家約二十）を過ぎ夫より下坡行程約八里にして潼關に入る。

崎嶇細路雨滂沱

淅々秋聲落葉多

六國當年扣關處

萬山頂上望黄河

潼關の險要

潼關^{トシコワン}は其の左翼を黄河に託し、右翼は秦嶺^{チンリン}の頂に達して、堅固の磚城を構築す、古來長安東方の固めとして第一關の名あり素より要衝に當るも、寧ろ戰術上よりは、戰略上の要地たらんか。何となれば、東は洛陽。西は長安^{チヤンアン}。東北は黄河を渡りて太原に通ずる三道の交叉點に位し、南流せる黄河は山西^{シヤンシ}、陝西^{シヤンシ}の兩省境を縫ひつゝ、是より東に折れ、渭河は西來黄河に朝して、水陸の交通頗る便に、百貨輻湊地味亦肥ゆるを以てなり。況や今や汴洛鐵道^{開封間}（河南間）既に大半の工事を畢り、且つ西潼鐵路^{シトシ}公司^{西安間}（西安間）は、現に西安に設立せられて、我國二名の技師の測量中に在るをや。若し他年黄河を渡りて太原に到るの鐵路開通し汴洛鐵道之を此の地に延長するの時期に會せば、潼關は將來實に有望の地なりとす。此地、城の内外を合し、戶數約